

## 治療を通して感じた税の大切さ

高島市立湖西中学校 3年 清水 響

「税って何のためにあるん?」「税って自分らにあんま関係くない?」これは以前の私の税に対するイメージである。だが、この作文を書くにあたり、母と税金についての話をしたり、今までの自分自身の生活を振り返ったりする中で、私にとって税金とはなくてはならないものだと気がついた。

私は、先天性多発性関節拘縮症という病気をもって生まれた。生まれてすぐに治療を始め、以前住んでいたつくば市にある病院で右足の、現在も通っている守山市の病院で左足の手術をし、装具も何度か作ったことがある。さらに、小学校高学年で脊柱側弯を発症し、中学二年生の秋からは夜寝る時にコルセットをつけている。生まれてから現在までとにかくたくさんの治療を受けさせてもらってきた。にもかかわらず、両親が払ったお金はほんの少しだという。それはなぜだろうか。

調べてみると、それには子ども医療費助成制度、通称「マル福」が関係していることが分かった。「マル福」とは、病院を受診したときに支払う自己負担分の費用を助成してくれる制度のことで、以前住んでいたつくば市では高校生以下の、現在住んでいる高島市では中学生以下の医療費を助成しているようだ。私はこの制度のことを知ったとき、今までお金に困ることなく治療を受けてこられたことに感謝をするとともに、こんなにもお世話になっていた税金のことを、「何のためにあるん?」と思っていた自分が恥ずかしくなった。また、今まで自分が全く知らなかった「税」について詳しく調べてみたいと思った。

そこで、インターネットを使って「税金の使い道」について調べてみた。すると、税金は公園や道路の整備、公立小・中学校の教科書など、ここには書ききれないほど多くのものに使われていることが分かった。私はこの二つのことから、改めて税は社会生活を成り立たせるうえで、必要不可欠なのだと感じた。

しかし、日本国民の中には「税なんて必要ない」と考える人もそう少なくはないと思う。私も、以前は「税」にマイナスイメージを持っていたのでその気持ちはよく分かる。だが、一度考えてみてほしい。今、日本で生きる多くの人は小・中学生の頃、税金によって支給された教科書を使っていたはずだし、日頃使っている道路も税金によって整備されている。このようにして考えてみると、やはり、税金は国民全員が、これからもずっと笑顔で過ごすために、必要なものなのではないか。

私はこの作文を通じて、税についてよく知り、よく理解することができた。また、自分の中での税のイメージも「とりあえず国のために納めるもの」から「みんなの笑顔のために納めるもの」に変わった。今の自分にできる納税は消費税しかないが、いつか、恩返しの意味も含めて、少しでも多くの税金を納められる大人になれるよう、まずは日々の学習に一生懸命取り組んでいきたいと思う。